



# 学童保育の生活を支える 保護者と指導員の伝えあい

編集部

このたび、本誌のモニターの保護者・指導員の方々に、ご協力いただいて、特集テーマの「保護者と指導員の伝えあい」に関わるアンケートを実施しました（二〇二五年一〇月一八日の時点で、回答数・指導員二〇件、保護者一四件、計三四件）。

ここでは、お寄せいただいたアンケートから特徴的なことを紹介し（アンケートの記述の引用は「\*」を冒頭に付記しました）、伝えあいに関わって大切にしたいこと、課題をたしかめます。

## 伝えあいの際の連絡方法・機会について

保護者に子どもの様子を「伝える」際には、いくつかの方法や機会があります。

◎一人ひとりの子どもの様子を伝える……連絡帳、お

迎えの際などの直接の連絡、個人面談など。

◎学童保育での生活や子どもたちの様子を保護者全体に伝える……おたより、保護者会、学年別懇談会など。

それぞれの特徴を理解し、伝える内容や目的に応じて複数を組みあわせて活用し、子どもの成長を支える観点から、必要な情報を継続的に保護者に伝え、「伝えあう関係」につなげていくことが必要です。

◆「おたより」を活用しているとの回答は、保護者・指導員あわせて二九件でした。「月に二回～三回」「週一回の通信で子どもの様子を伝えている」との回答もありましたが、多くが月一回の発行でした。

おたよりの内容は、「子どもたちが遊んでいるときの様子」「これから取り組もうと思っている遊びの紹介」「何気ない日常のなかのエピソード」などを子どもの名前も含めて記しているとの回答があ

つづきは本誌をぐらんどさい